

マル程ニゾ家ニ來テ門ヲ叩ク程ニ馬ニ皮子ニツヲ負セテ、共ニ具シタリケルヲ、門脇ニニツ乍ラ取下シテ、此奉レト候ヅル也ト云テ、取置テ負セタリツル馬モ、具シタリツル者共モヤガテ返去ニケリ、此スレドモ更ニ心不得、而ル間家ヨリ人出デ、誰ゾ此ク御門叩クハト問ヘバ、我來タル也、此開ヨト云ヘバ、殿御マシニタリトテ、一家喧ツ合テ、門ヲ開テ入タレバ、妻子觀硯ヲ見テ喜ブ事无限、門ノ脇ニ置タリツル皮子ヲ、二乍ラ取入テ開テ見レバ、一ツニハ文ノ綾十疋、美八丈十疋、疊綿百兩入タリ、今一ツニハ白キ六丈ノ紬布十段、紺ノ布十段入タリ、底ニ立文有リ、披テ見レバ、糸惡キ手ヲ以テ假名ニ此ク書タリ、一トセノ壺屋ノ事ヲ思シ出ヨ、其事ノ手今難忘ケレバ、其畏ヲ可申方ノ不候ツル、此上ラセ給フ由ヲ承テ迎ヘ奉ル也、其喜サハ何レノ世ニカ忘レ申サム、其夜徒ニ成ナマシカバ、今マデ此テ侍ラマシヤバト思給ウレバ、无限ナント書タリ、其時ニゾ觀硯被心得テ肝落居ケル、東ヨリモ極ク不合ニテ上タリケレバ、侍受ケン妻子ノ爲ニモ恥カシク思ケルニ、此物共ヲ得タレバ喜クテ、田舎ノ物ヲ具シテ上タル様ニ思ハセテ有ケル、此ル事ヨソ有シカト觀硯ガ語リシ也、不思懸物共得タル觀硯也カシ、然レバ世ノ人尙人ノ爲ニハ吉ク當リ可置事也トナシ、語リ傳ヘタルトヤ、

〔古今著聞集倫^二盜〕博雅三位の家に盜入たりけり、三品板敷の下ににげかくれにけり、盜人歸り、さて後はひ出て家中を見るに、殘たる物なくみな取てけり、筆築一を置物厨子に残したりけるを、三位とりてふかれたりけるを出でさりぬる盜人はるかに是を聞きて感情をさへがたくして、歸来て云やう、只今の筆築のねを承にあはれにたうとく候て悪心みなあらたまりぬ、取所の物どもことぐくに返し奉るべしといひて、皆置いて出にけり、昔の盜人は又かくゆう成心も有けり、

〔古事談^三行〕此安養尼上之許、強盜亂入、房中ニ有ケル物皆搜取出了、尼上紙衾計ヲ被^著ケリ、小尼